

日韓トンネル通信

編集/発行

特定非営利活動法人

日韓トンネル研究会

事務局：東京都千代田区飯田橋4-1-11
〒102-0072 信濃ビル6階

TEL 03-3265-8813 FAX 03-3237-1012

E-mail office@jk-tunnel.or.jp

九州事務所：佐賀県唐津市和多田2344-6
〒847-0000

TEL 0955-75-2930

☎0120-09-2188



写真-1 大韓民国憲政会のホールにて

(報 告)大韓民国憲政会を訪問しました。

2018年2月21日(水)、野澤太三会長と永野慎一郎常任理事ら4名は、ソウル市永登浦区にある大韓民国憲政会を訪問した。大韓民国憲政会は国会議員経験者の集まりで、韓国の国会開設から現在に至る60年間に国会議員を経験した約1200名で構成される。韓国は一院制のため国政への影響力は強い。

今回の表敬訪問は、参議院議員経験者からなる一般社団法人参議院協会(理事長：野澤太三)の企画で、日韓両国の議員経験者間での未来志向の交流を重ねるために行った。

なお日韓トンネル研究会の関係者が大韓民国憲政会を訪問したのは2012年6月28日以来、約6年ぶりである(写真-1)。

野澤会長は招待のお礼でピョンチャン(平昌)冬季オリンピック開催の成功を祝し「古くから日本は韓半島を経由して文化や芸術など多くの恩恵を受けた」と語った。これに対し、大韓民国憲政会のユ・ヨンテ(劉容泰)会長は、韓国の近代化に日本の協力があつたことに触れ「国会議員のOBとして率直に話ができる関係づくりが大切」との気持ちを表した。

日韓関係の困難な状況について野澤会長は「現職時代に最も対立関係にあつた議員が今では一番親しい間柄にある」という経験を語った。それに対しユ・ヨンテ会長は、小事にとらわれ、大切なことを考えない現状の問題点を挙げた。そして必要な仕事に知恵と力を出し合うため交流を重ねることで一致した。

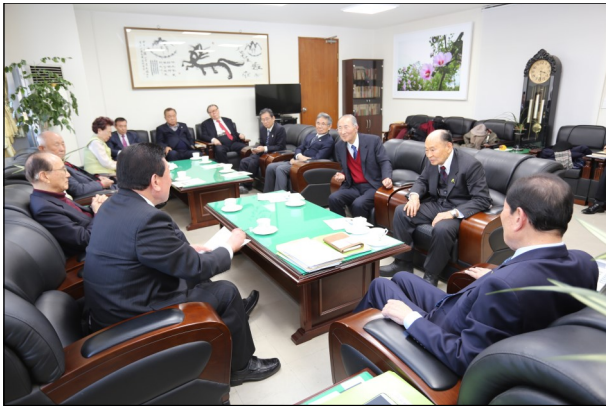


写真-2 大韓民国憲政会での懇談



写真-3 ユ・ヨンテ（劉容泰）会長（右）

ユ・ヨンテ会長は今回の平昌冬季オリンピックについて「日本の安倍総理をはじめ多くの方が韓国を訪れているということが嬉しい。2020年の東京オリンピックのときは韓国が東京を応援して盛り上げたい」と語ると、野澤会長は「冬季オリンピックの開催を経験した良い仲間・同志ができた」と今後の交流の積み重ねに期待感を示した（写真-2）。

日韓トンネルについて野澤会長は「日韓トンネル構想と実現への展望（韓国語版）」を使い、トンネルの位置や形状、使い方などを説明し、3回に亘り日韓首脳会談で取り上げられた経緯を語った。そして日韓間の往来がさらに盛んになり、「国民同士の心が通い合うトンネルを掘ることが大切」と締めくくった。

大韓民国憲政会の役員8名と約2時間懇談した後、韓国の伝統料理による夕食会のお招きを受け交流と絆を深めた（写真-3）。



写真-4 大使館にて長嶺大使（左から3人目）

（報 告）在大韓民国日本国大使館を訪問しました。

2018年2月21日（水）、野澤太三会長と永野慎一郎常任理事ら4名は、ソウル市鐘路区にある在大韓民国日本国大使館を訪問した。一行は長嶺安政特命全権大使と北川克郎公使政治部長と面会し、日韓関係や韓国の政治、経済、外交の現状を聞いた（写真-4）。

【政治】 2017年5月10日に文在寅大統領が就任し、国民との疎通を図る姿勢をアピールし、国政運営に対し63.1%の肯定的評価がある。6月の統一地方選挙が政局の争点となる。

【経済】 2018年の成長率は3.0%を見込む。主な経済政策は①最低賃金引き上げ、②雇用創出、③財政改革、④脱原発で、「人中心経済」への転換を掲げている。

【外交】 日韓関係では未来志向の日韓関係の構築で一致している。人的往来は2017年の推計値で714万人と過去最高を更新した。課題として①慰安婦問題、②徴用工問題、③竹島問題がある。長嶺大使は平昌五輪開会式への安倍総理の出席について「難しい判断だったが現場としてはよかったと思う」と語った。

野澤会長はパンフレット「日韓トンネル構想と実現への展望（日本語版）」と「日韓トンネル通信 No. 53」を長嶺・北川両氏に渡し、日韓トンネルの経緯、現状、今後の進め方等について説明した。



写真-5 普光フェニックス スノーパークで観戦

ハーフパイプ（中央）とフリースタイル（右側）



図-1 ソウルから普光・平昌間の移動経路（矢印）



写真-6 日本人ボランティアによるサポート

（報 告）第23回オリンピック冬季競技大会を観戦しました。

ピョンチャン（平昌）五輪は、2018年2月9日から2月25日まで17日間に亘り開催された。冬季オリンピック最多の92ヶ国と地域から2925人の選手が出場し、7競技15種目の熱い戦いが繰り広げられた（写真-5）。

2018年2月22日（木）午前7時、一行4名は宿泊先のロッテシティホテル明洞をマイクロバスで立ち、ソウルの東方約150kmにあるオリンピック会場に向かった。高速道路を経由し3時間後の午前10時にポグウン（普光）フェニックス スノーパークに着いた（図-1）。

【普光フェニックス スノーパークで観戦】

天候の影響による競技日程の変更のため当日券の入手に苦労したが、ボランティアの協力もあり、スキージャンプとハーフパイプの座席を確保できた（写真-6）。

競技は会場に設置された大型モニターによりスタートからゴールまで中継されるのでわかり易いが、競技間の待ち時間が長く、氷点下1℃の寒風の中では辛抱も必要であった。

しかし待ち時間には人気アイドルらによる歌や踊りなどが披露され、大型スピーカーの大音響などテレビ中継では決して味わえない現地ならではの高揚感を満喫できた。

普光はそばの一大産地で、昼食にはそば粉をふんだんに使った料理に舌鼓を打った。開花時期には一面真っ白なそば畑が広がり、ソウルなどから観光客が押し寄せるそうだ。

【平昌ジャパンハウスを訪問】

普光から東方約 30km に開会式が行われた平昌オリンピックスタジアムがある。一行はスタジアムに隣接するジャパンハウスを訪問した。ジャパンハウスは日本オリンピック委



写真-7 平昌ジャパンハウス



写真-8 札幌五輪誘致の展示物（大倉山シャンツェ）



写真-9 たたえあう小平奈緒・李相花選手

員会（JOC）が開設し、国内外の関係者の歓待、メダルを獲得した日本人選手の会見を行うなどの機能を持っている。館内には日本食の試食コーナーや来場した各国の関係者を和食でもてなす施設が整い、歓談や食事など華やかだ雰囲気が満ちていた（写真-7）。

一行は 2026 年の冬季オリンピックを札幌に誘致するための特設ブースを見学した。日本には世界でも有数の豪雪地帯があり、雪と氷で交通が途絶するなどの雪害や、その対策の費用負担が大きい。一方、雪を求めて多くの人たちが国内外から雪国を訪れることも事実で、活力と楽しみの源として雪と氷を見直すことも大切だ。雪は幸せをもたらす天からの恵みでもある（写真-8）。

【ソウル市内の観光】

平昌からソウル市内に戻った一行は、明洞の焼肉店で夕食を取ったのち、日暮れの繁華街を散策した。路地に並ぶ屋台からは湯気と香りが漂い、狭い通路は食を楽しむ観光客でごったがえしていた。平昌オリンピックを祝う横断幕の下を様々な民族衣装を着た外国人が行き交い、オリンピックの力を感じた。

翌日 2 月 23 日（金）、一行は帰国の途に就く前にソウル市内の国立中央博物館を訪れた。館内の展示物を見学し、**韓国の歴史の長さ**と**日本との繋がり**の深さを再認識した。

【感動の金・銀メダル】

訪韓直前の 2018 年 2 月 18 日、冬季五輪スピードスケート女子 500 メートルで、日本の小平奈緒が金、韓国のイ・サンファ（李相花）が銀メダルに輝いた。ゴール直後、両者が抱き合ってたたえあうシーンは韓国でも大きな感動を呼び起こした（写真-9）。

このような、お互いに認め合い尊敬しあう気持ちは日韓間の困難な課題を解決する「心のトンネルを掘る力」となるだろう。